

# 2006年度決算説明会

株式会社 **千葉銀行**

2007年6月1日

# 目次

はじめに	2
------	---

## 第1章 前期決算の概要

決算概要 P/L	4
決算概要 B/S	5
決算概要 連結	6
2008年3月期業績予想	7

## 第2章 「『価値創造』へ向けて 挑戦と革新の100週間」の総括

挑戦と革新の100週間～実績	9
挑戦と革新の100週間～成果	10

## 第3章 「地域とともに歩む 信頼と成長の100週間」

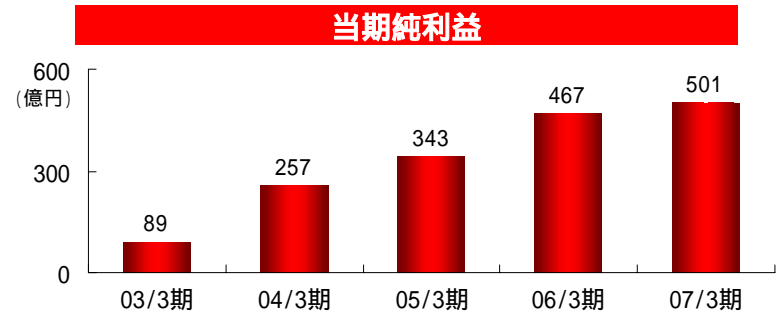
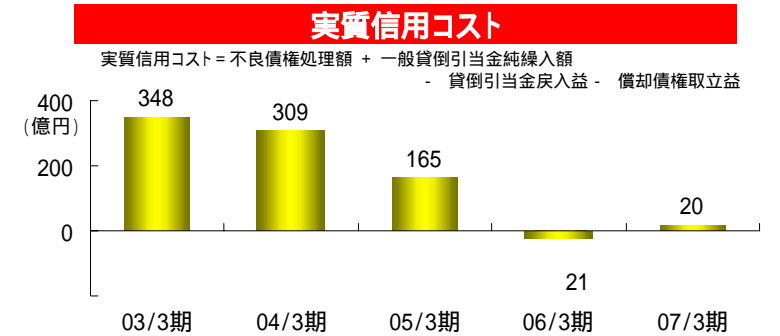
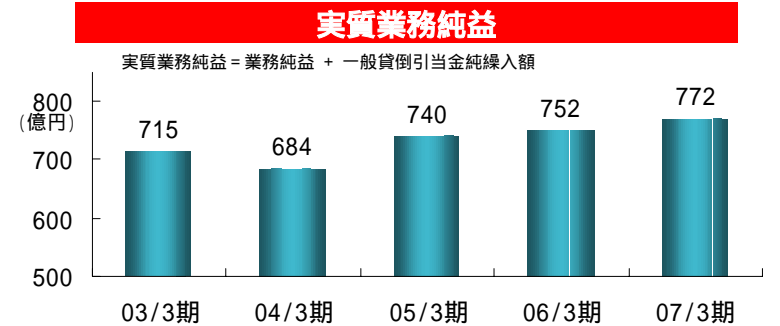
新中期経営計画骨子	12
収益増加計画	13
営業基盤	14
店舗戦略	15
貸出金増加計画	16
預貸金利鞘	17
住宅ローン	18
有価証券運用	19
預金	20
団塊世代への取組み	21
金融商品販売	22
法人向け新ビジネス	23
役務取引等利益	24
経費	25
自己資本比率	26
配当政策	27

# はじめに

2007年3月期は資金利益や役務取引等利益が増加したことなどにより、実質業務純益は772億円と過去最高となりました。

また実質信用コストが20億円と低位であったことから、当期純利益についても501億円と最高益を更新しました。

本日は前期決算の概要および前中期経営計画の実績・成果について説明の後、新中期経営計画「地域とともに歩む 信頼と成長の100週間」に基づいた今後の当行の経営戦略について説明いたします。



# 前期決算の概要

# 決算概要 P/L

## ◆実質業務純益、経常利益、当期純利益で過去最高

<億円>	06/3期	07/3期	増減額
業務粗利益	1,505	1,551	45
うち 資金利益	1,262	1,324	61
うち 役務取引等利益	196	214	17
うち その他業務利益	26	11	37
うち 債券関係損益	7	60	68
うち 国際業務部門	9	71	62
経費	753	779	25
うち 人件費	358	369	10
うち 物件費	352	365	12
実質業務純益	752	772	19
コア業務純益	744	832	88
一般貸倒引当金繰入額	-	-	-
業務純益	752	772	19
臨時損益	63	58	4
うち 不良債権処理額	111	139	27
うち 株式等関係損益	28	49	21
経常利益	688	713	24
特別損益	121	112	8
うち 貸倒引当金戻入益	92	75	17
うち 償却債権取立益	40	42	2
当期純利益	467	501	33

資金利益

< 億円 >	07/3期	増減
資金利益	1,324	61
国内業務部門	1,299	82
うち 預貸金	1,137	31
貸出金利息	1,213	93
預金利息	76	61
うち 有価証券利息	179	60
国際業務部門	24	20

役務取引等利益

< 億円 >	07/3期	増減
役務取引等利益	214	17
役務取引等収益	358	32
うち 投信+年金保険	117	21
役務取引等費用	144	14
うち 団信・保証料等	90	7

実質信用コスト

< 億円 >	07/3期	増減
(一般貸倒引当金繰入額)	87	12
不良債権発生内訳	150	56
債務者区分悪化	179	31
担保	18	25
回収等	47	50
信用コスト	63	44
償却債権取立益	42	2
実質信用コスト	20	42

# 決算概要 B / S

## ◆預金・貸出金ともに順調に増加

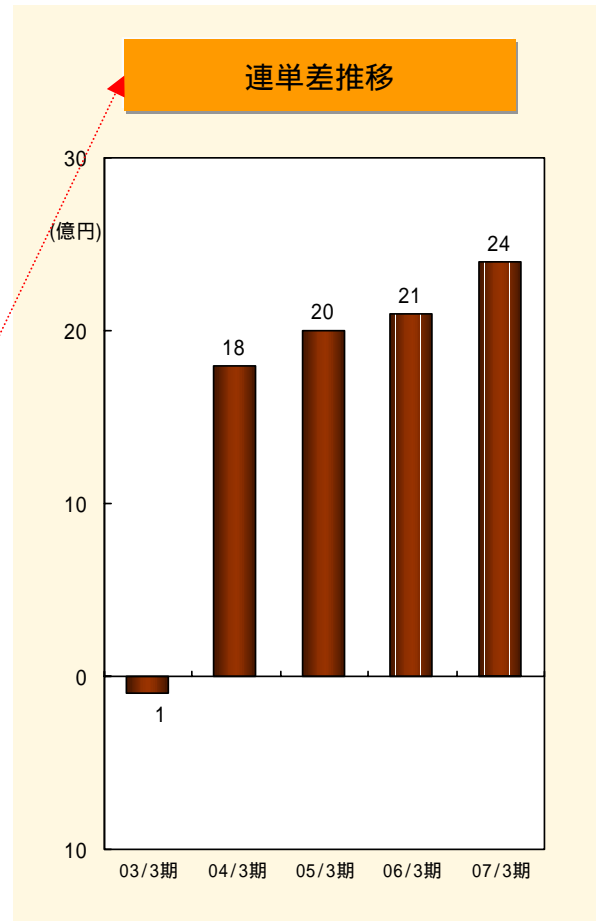
<億円>	06/3末	07/3末	増減額
<b>資産の部</b>	97,663	96,917	746
うち 現金預け金	2,690	2,413	277
貸出金	61,674	64,075	2,400
有価証券	26,340	24,150	2,190
<b>負債の部</b>	92,471	91,228	1,242
うち 預金	80,091	83,715	3,624
譲渡性預金	1,300	1,305	5
社債	100	200	100
資本の部(06/3)	5,191	-	-
純資産の部(07/3)	-	5,688	-
金融再生法開示債権残高	2,264	2,023	240
不良債権比率	3.60%	3.08%	0.51%

<億円>	07/3末	増減
<b>貸出金</b>	64,075	2,400 <b>+3.8%</b>
国内	63,771	2,292
除く公共	58,804	3,500 <b>+6.3%</b>
事業者向け	37,403	2,271
消費者ローン	21,400	1,229
公共	4,967	1,208
海外	303	107
<b>有価証券</b>	24,150	2,190
簿価	23,184	2,213
うち 外貨建有価証券	4,897	1,562
評価損益	965	23
うち 外貨建有価証券	63	76
<b>預金</b>	83,715	3,624 <b>+4.5%</b>
うち 個人	61,072	2,245 <b>+3.8%</b>
法人	15,382	837
公金	4,419	215

# 決算概要 連結

## ◆グループ総合力の強化により連単差は拡大

<億円>	連結		連単差額
	07/3期	単体	
経常収益	2,627	2,280	346
うち 貸出金利息	1,252	1,232	20
役務取引等収益	456	358	97
経常費用	1,807	1,567	240
経常利益	819	713	106
当期純利益	525	501	24



業務	社名	特長
証券	中央証券	千葉県内に12店舗を有し県内株式売買高シェアトップクラス 稼動口座数約53千口座
リース	ちばぎんリース	契約残高約528億円 リース業務強化により更なる収益拡大を指向
システム開発	ちばぎんコンピューターサービス	積極的に外販先を開拓してきた結果、地元自治体や地元企業などの外販比率は約8割
情報・調査コンサルティング	ちばぎん総合研究所	千葉県内における唯一のシンクタンク 県内有力企業を中心に会員数約6千先

# 2008年3月期 業績予想

◆トップラインが拡大し、引き続き最高益更新

<億円>	07/3期	08/3期	07/3期比 増減額
	(実績)	(計画)	
業務粗利益	1,551	1,680	129
経費	779	810	31
実質業務純益	772	870	98
経常利益	713	850	137
当期純利益	501	530	29
信用コスト	63	50	13
実質信用コスト	20	10	10
連結経常利益	819	900	81
連結当期純利益	525	555	30



---

**「『価値創造』へ向けて 挑戦と革新の100週間」  
の総括**

# 挑戦と革新の100週間～実績

## ◆ほぼ全ての計数目標を達成

前中期経営計画 計数目標・実績

07年3月期	連結当期純利益	実質業務純益	ROA	ROE	OHR	Tier 比率
目標	440億円	810億円	0.4%以上	8.5%以上	50%未満	8%以上
実績	525億円	772億円 (コア業純 832億円)	0.51%	8.81%	48.82%	9.29%

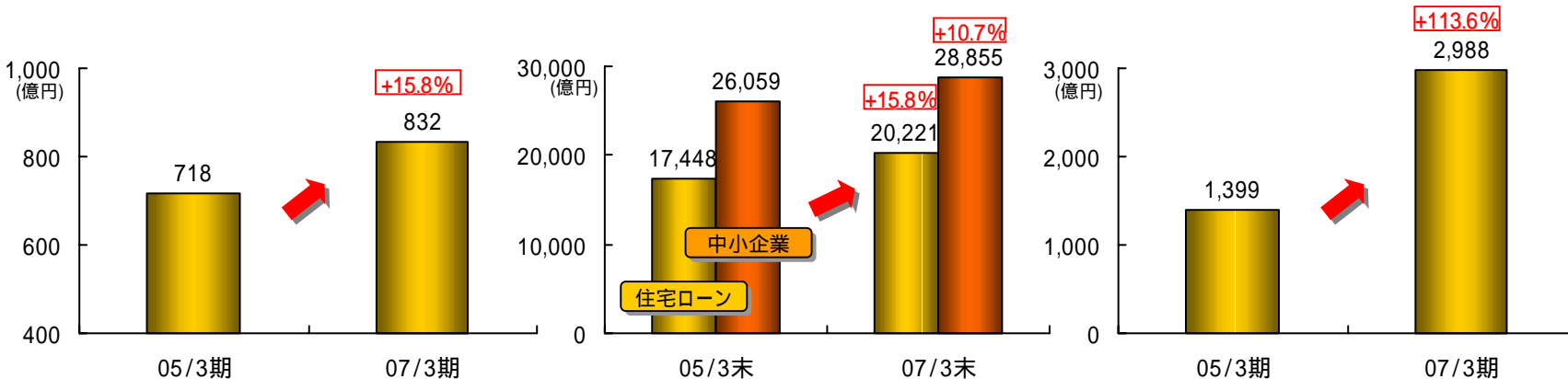
当期純利益ベース

### 主要項目の実績(単体)

#### コア業務純益

#### 中小企業向け貸出・住宅ローン

#### 株式投資信託販売額



# 挑戦と革新の100週間～成果

## ◆持続的な成長を実現するための諸施策を実施

### ゆるぎない営業基盤の確立

#### 営業力の強化

✓営業拠点の拡充

新設拠点数 **10** (千葉県内4 隣接都県6)

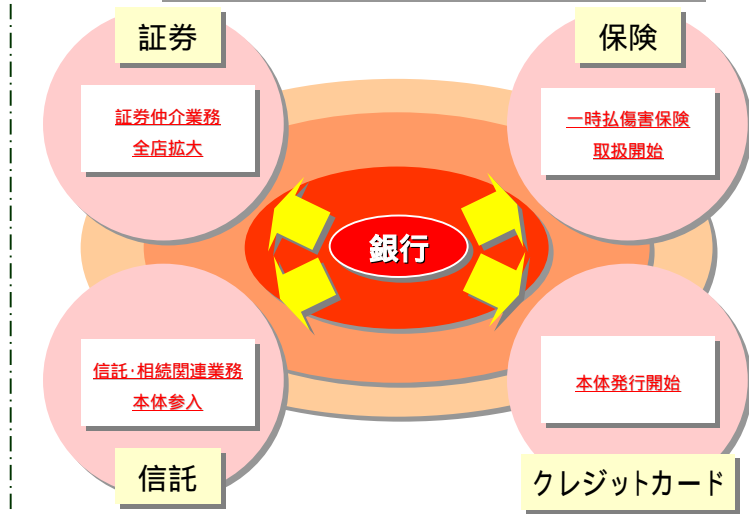
神栖支店(07年4月開設準備委員室設置済)を含む

✓成長地域等への人員シフト

✓営業体制の見直し

✓貸出決裁のスピードアップ

#### 規制緩和に対応した業務の拡大



### 経営システムの不断の変革

バーゼル に対応した高度な内部管理態勢の構築

信用リスク計測における内部格付手法使用の承認

**「地域とともに歩む 信頼と成長の100週間」**

# 新中期経営計画骨子

◆高い支持を受ける「地域の総合金融サービスグループ」の確立

「地域とともに歩む 信頼と成長の100週間」

経営  
指針

高い支持を受ける  
「地域の総合金融サービスグループ」の確立

経営  
課題

経営課題  
経営管理態勢の強化

経営課題  
営業基盤の拡充

経営課題  
地域社会発展への貢献

ステーク  
ホルダー

お客さま

株主

地域社会

従業員

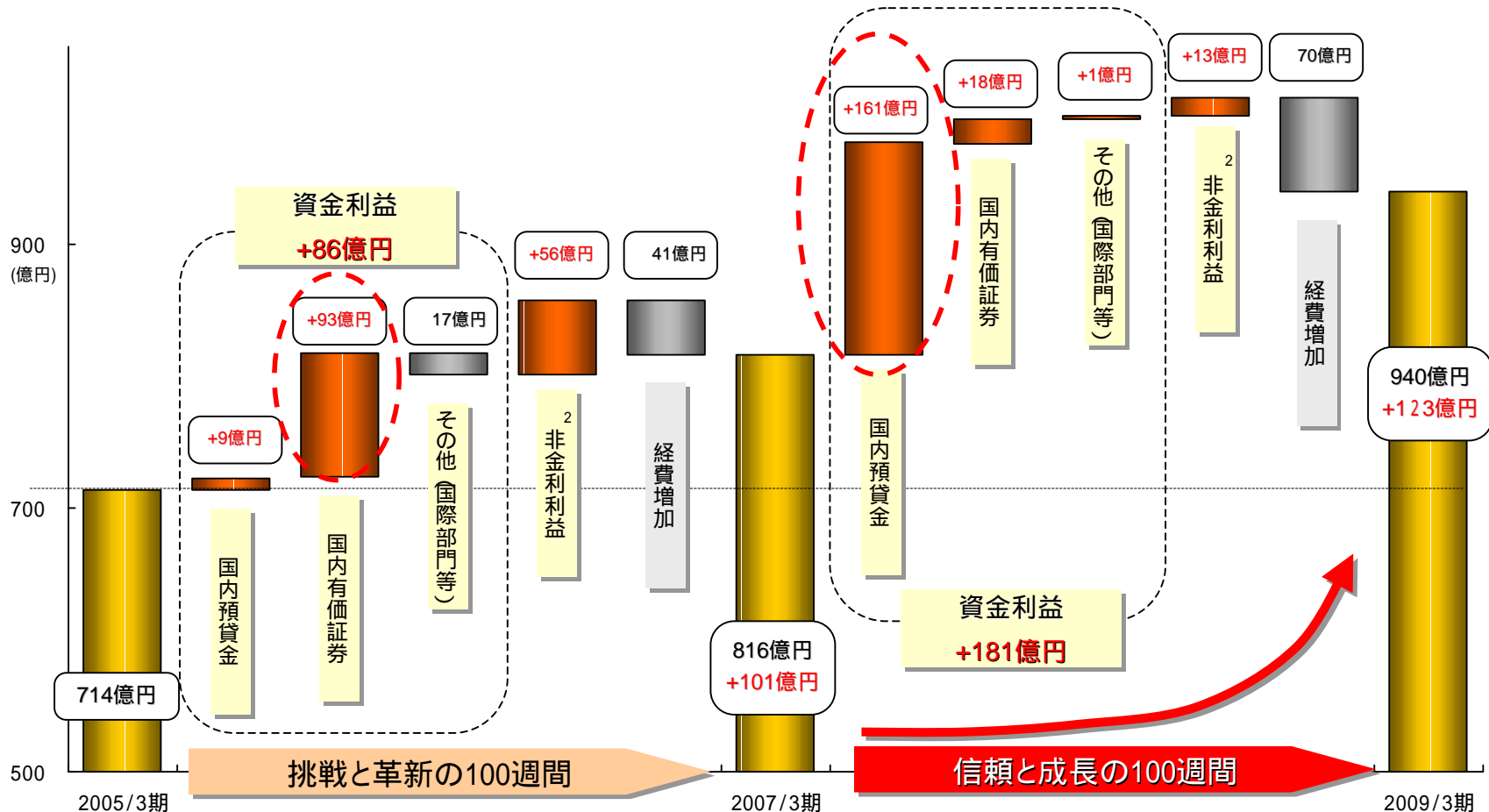
計数計画

	07/3期 実績	09/3期 計画
業務粗利益	1,551億円	1,800億円
経費	779億円	850億円
実質業務純益	772億円	950億円
当期純利益	501億円	550億円
連結当期純利益	525億円	580億円
単体OHR	48.82%	50%未満
連結ROE	8.77%	9%以上
連結自己資本比率	11.63%	11%以上

# 収益増加計画

## ◆預貸金資金利益を中心に収益増加

実質業務純益増加の内訳<sup>1</sup>



2005/3期

1債券関係損益、金融派生商品損益を除くベースで表示

2非金利利益 = 役務取引等利益+外為売買益+特定取引利益

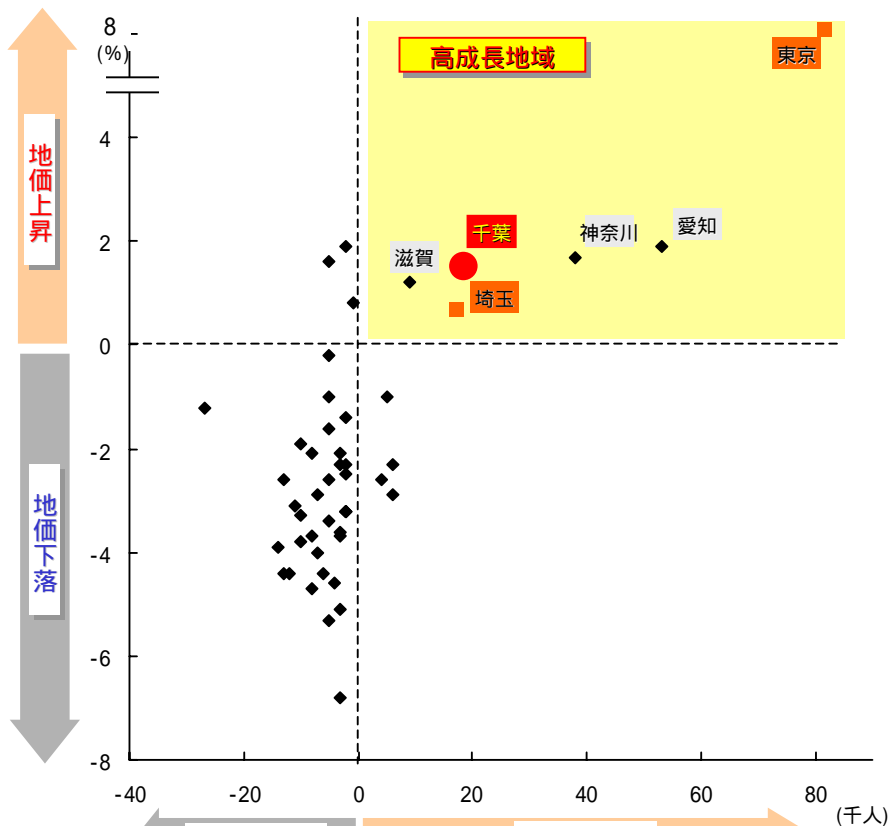
2007/3期

2009/3期

(計画)

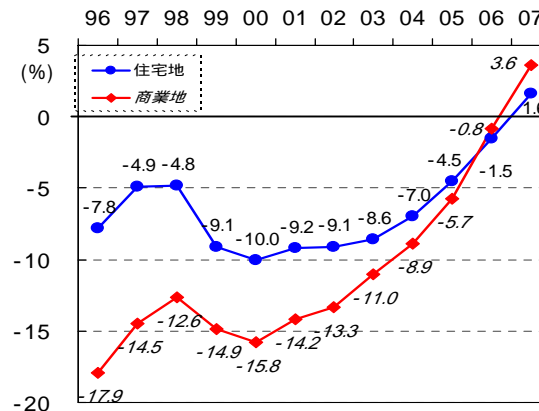
## ◆高い成長が続く千葉県

都道府県別人口増加 1・地価変動の状況 2

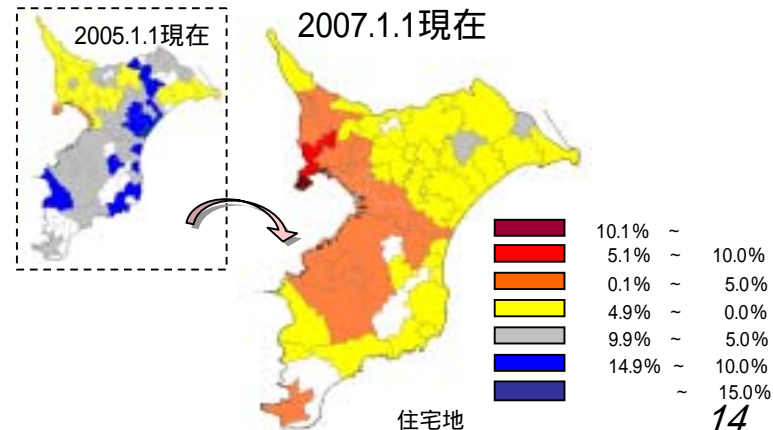


1.05年10月 06年10月の増減数[「人口推計」(総務省)]  
2.06年1月 07年1月の変動率[「公示地価(住宅地)」(国土交通省)]

## 千葉県公示地価推移



## 千葉県公示地価地域別変動率



# 店舗戦略

## ◆マーケット特性・ターゲットに合わせチャネルを拡充

### 今後の店舗展開

10拠点程度の新拠点開設を目指す

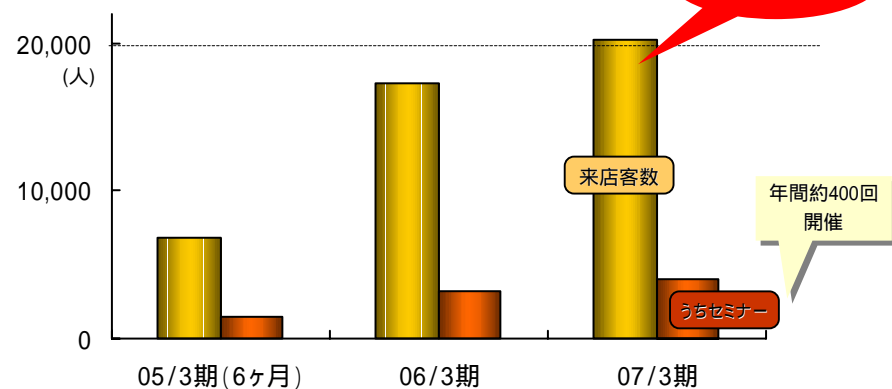


### 06年下期新規融資の状況

	新規取引先 融資実行額 (億円)	新規取引先 期中平均約利 (%)
千葉県内+秋葉原ブロック	752	2.12
秋葉原ブロック	9か店 168	2.14
うち新設拠点	3か店 77	2.07
千葉市以西	497	2.07
その他	85	2.37

葛西支店、東陽町法人営業所、北千住法人営業所

### コンサルティングプラザ千葉の実績

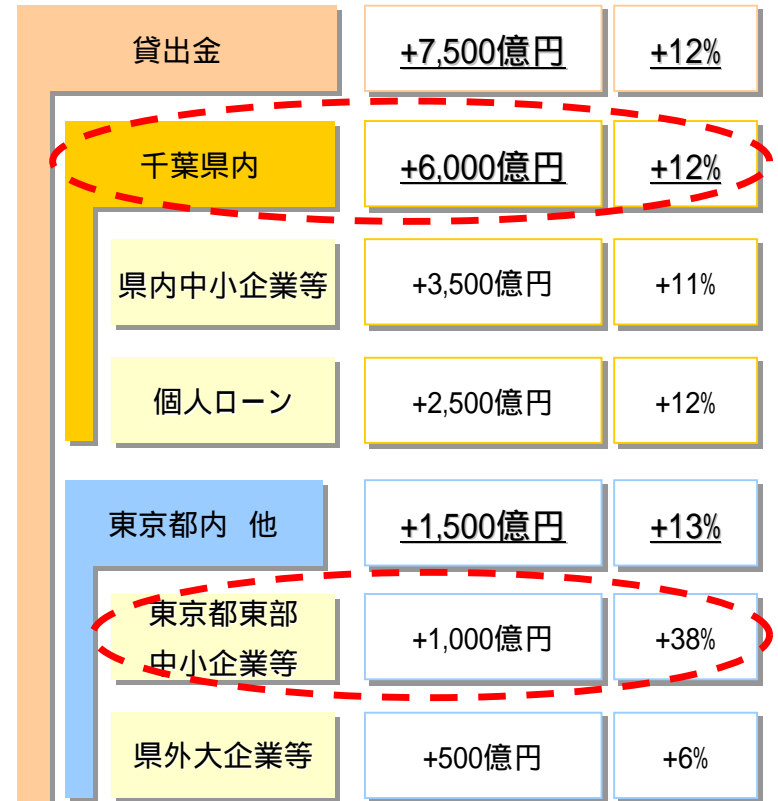
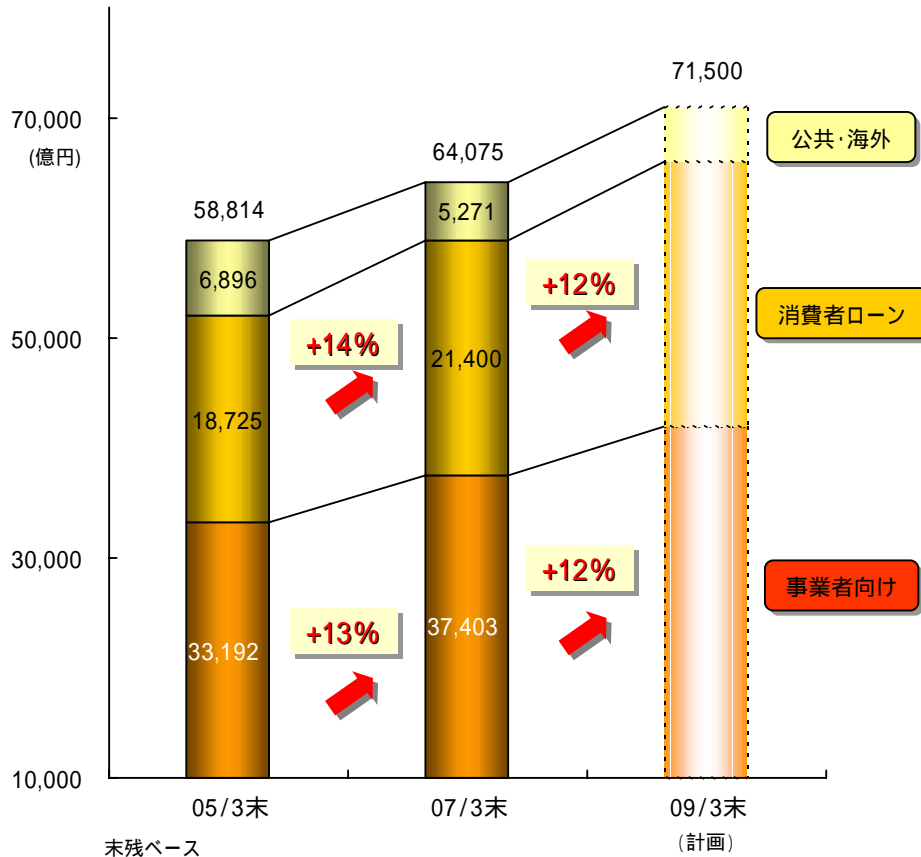




# 貸出金増加計画

## ◆千葉県内に加え、東京都東部で貸出増加

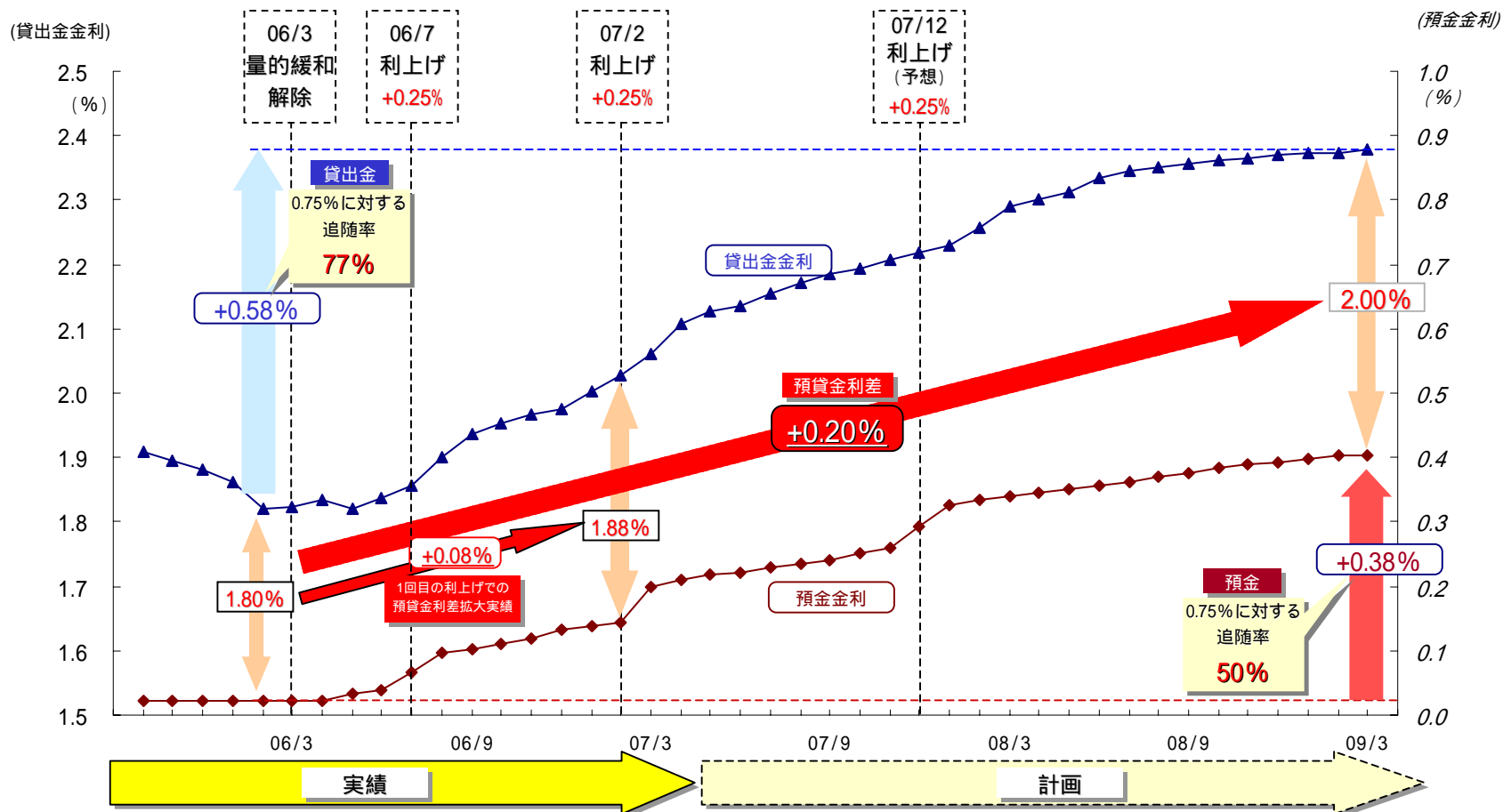
中計2年間の貸出金増加の内訳



# 預貸金利鞘

◆預貸金利差改善実績を踏まえ、保守的に予想

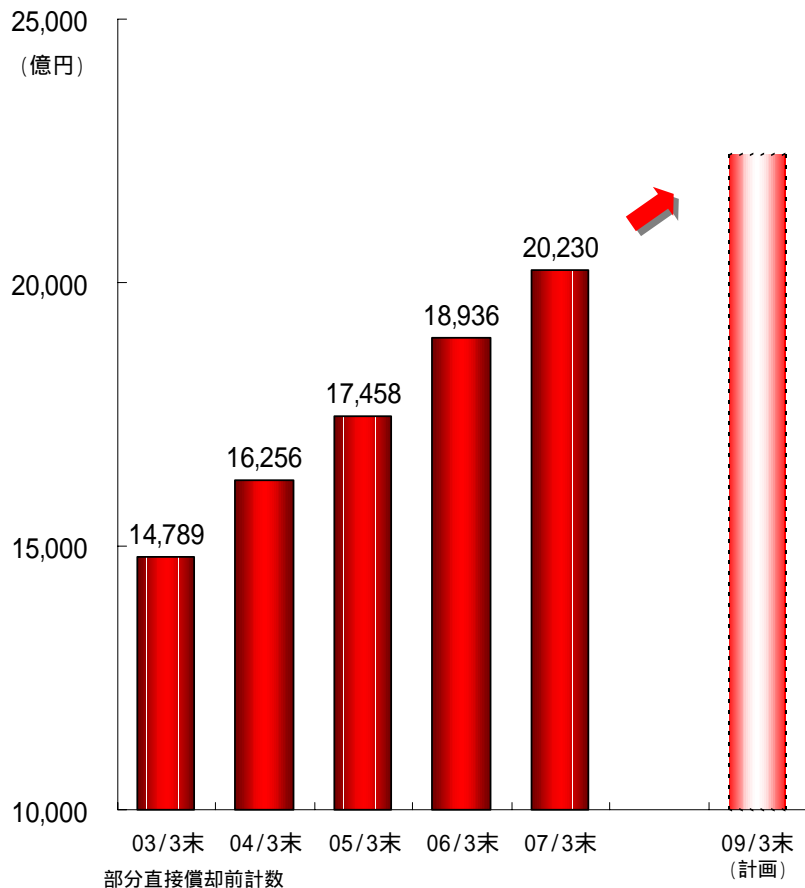
円貨預貸金金利推移(月次)



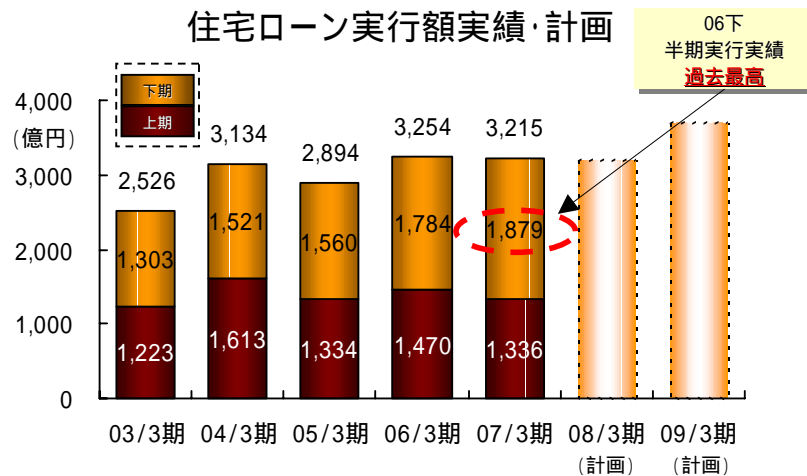
# 住宅ローン

## ◆成長性の高いマーケットへ積極対応

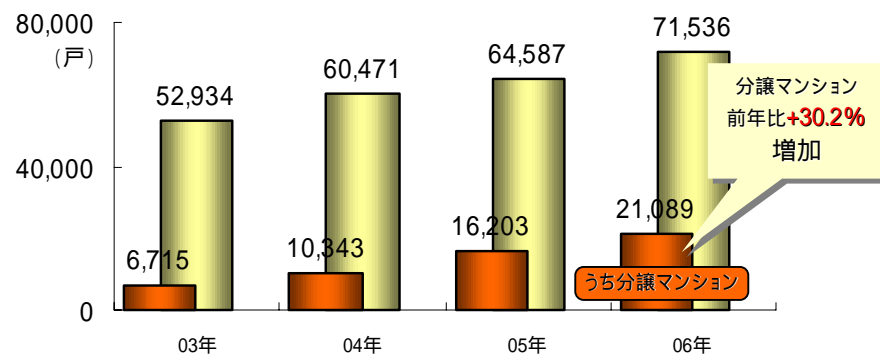
住宅ローン残高実績・計画



住宅ローン実行額実績・計画



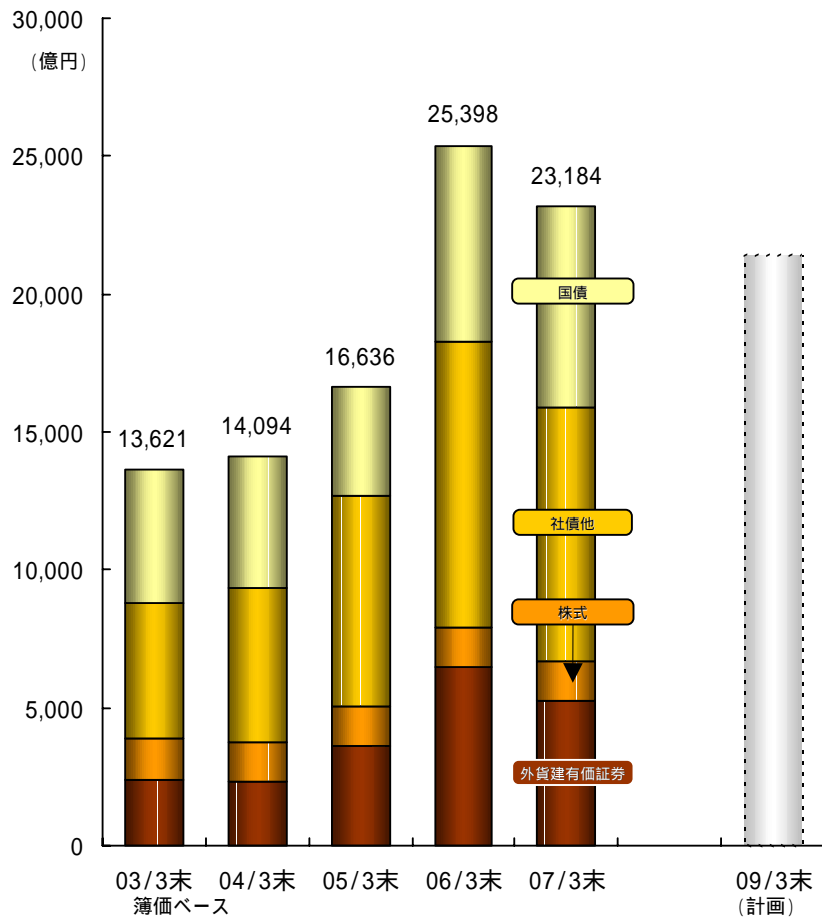
千葉県内住宅着工戸数推移



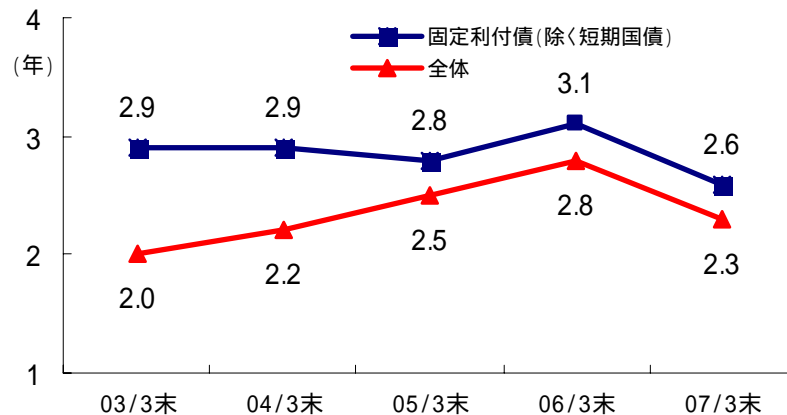
# 有価証券運用

◆運用の高度化を図り、安定的な収益を確保

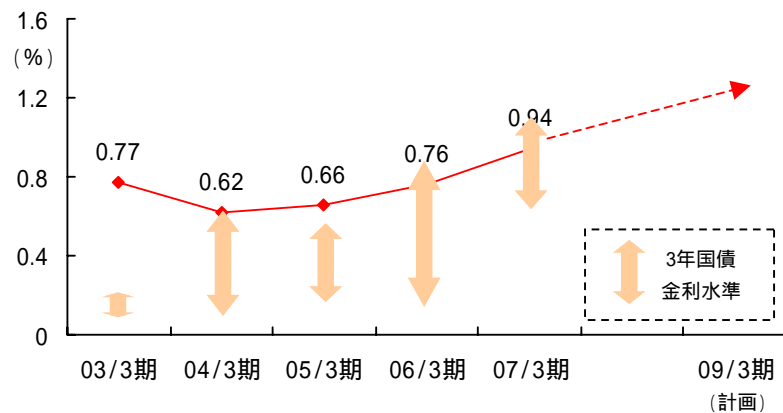
有価証券未残実績・計画



円債の平均残存期間



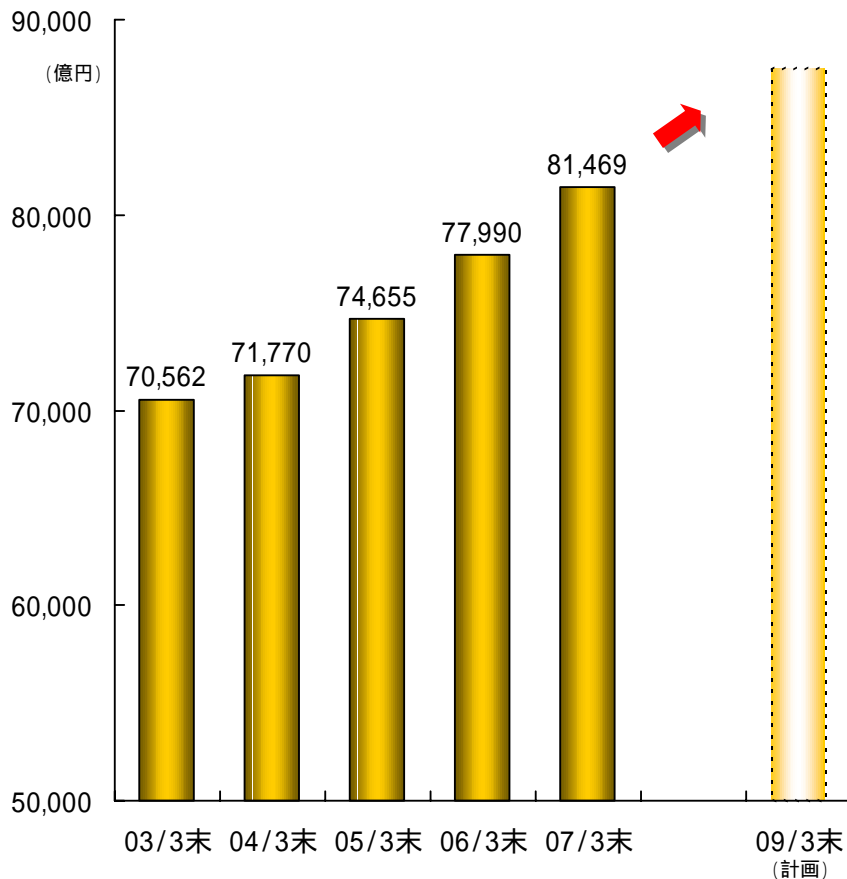
国内業務部門有価証券利回り実績・計画



# 預金

◆預金の重要性を再認識し、獲得に向けた取組みを強化

国内預金



預金取引を基本に置く

✓安定的かつ低コストな資金調達手段

預金・市場調達利回り比較 (国内業務部門)

	06/3期 利回り	07/3期 利回り	増減
預金	0.01%	0.09%	0.08%
流動性預金	0.00%	0.06%	0.06%
定期預金	0.05%	0.15%	0.10%
コールマネー	0.00%	0.24%	0.23%

科目		今後の方針
資産	貸出金	➡
	有価証券	➡
負債	預金	➡
	市場調達	➡

調達余力の向上

想定以上の  
✓貸出増加  
✓金融商品販売増加  
に対応可能

✓投資型金融商品の販売原資

# 団塊世代への取組み

## ◆団塊世代の大量退職に積極的に対応

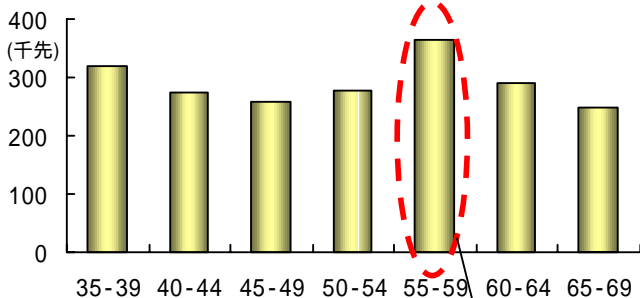
千葉県内退職一時金

04-06年度  
1.7兆円

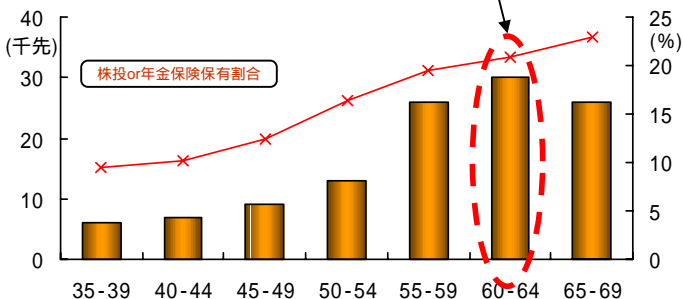
07-09年度  
2.3兆円

ちばぎん総合研究所試算による

当行年齢層別顧客数



預金等預かり資産1千円以上の先数



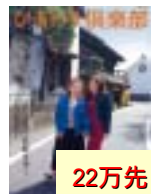
うち預金等預かり資産  
1千万円以上

## 団塊世代向けブランドの確立

07/4~

ひまわり倶楽部

✓団塊世代対象会員サービス開始



22万先

当行独自の  
サービス

+

他業種との提携  
旅行 健康

広告宣伝

✓団塊世代対象の広告宣伝実施



## 商品・サービスの充実

06/10~

特別キャンペーン

いきいきセカンドライフを応援  
退職金運用プラン

✓定期預金金利の優遇  
✓旅行券等懸賞の提供

06/6~

相続関連業務

遺産整理業務  
遺言信託

受付実績

06上期(3ヶ月)

06下期

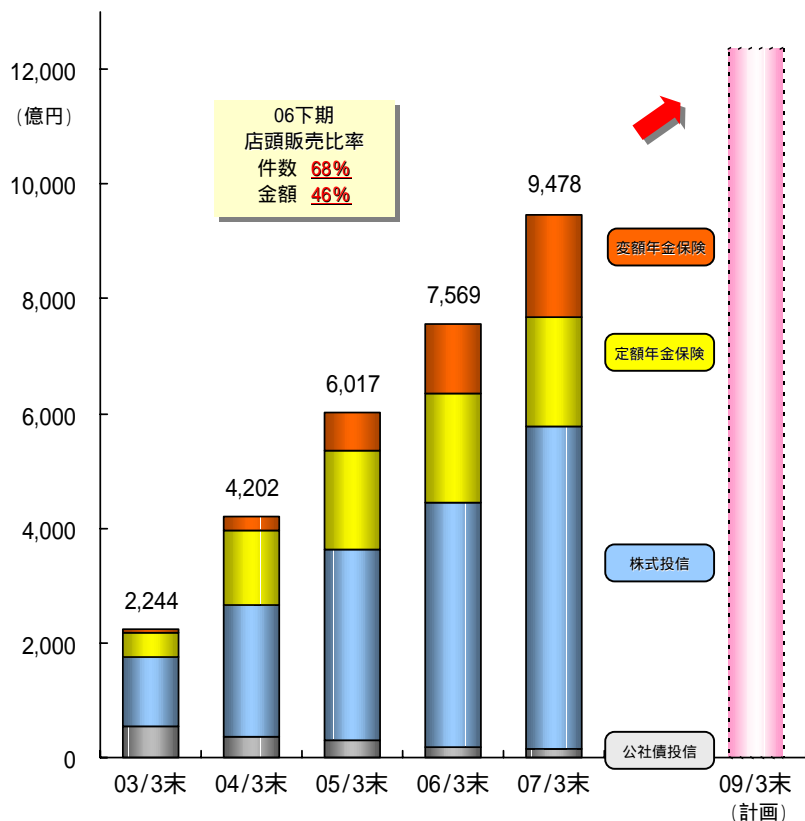
22件

89件

# 金融商品販売

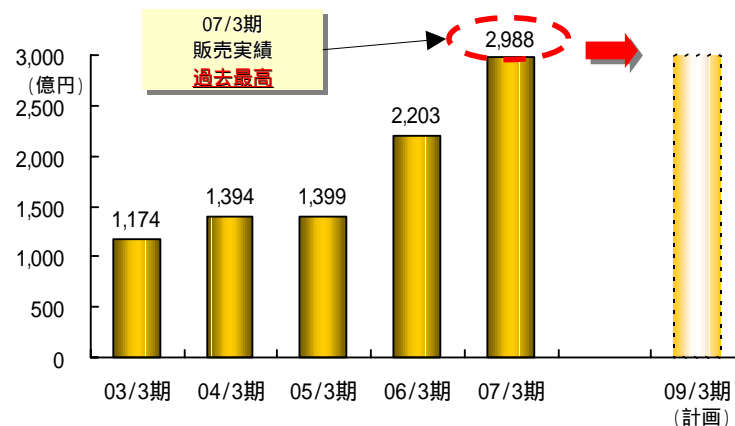
## ◆強力な店頭販売力を背景に安定的な収益を実現

投資信託残高・年金保険販売累計推移

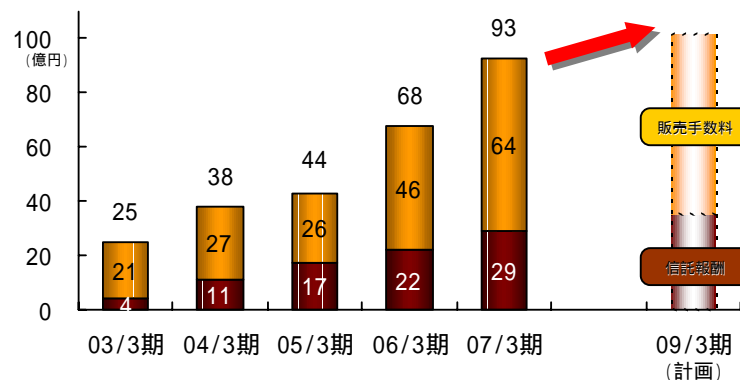


06/2より取扱を開始した一時払終身保険は変額年金に含む

株式投信販売実績・計画



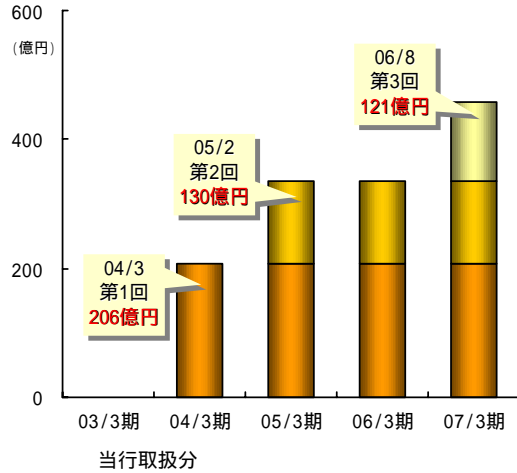
投資信託手数料内訳



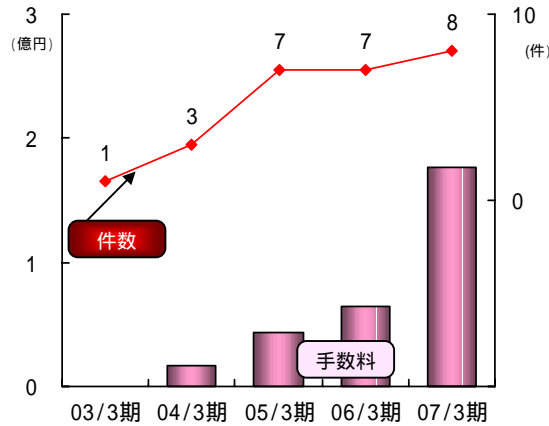
# 法人向け新ビジネス

## ◆ソリューション営業力の強化により役務収益を増強

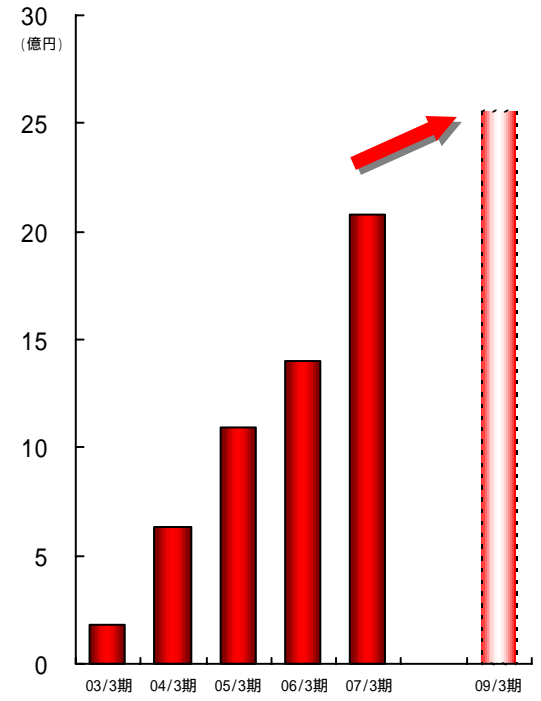
CLO取扱実績累計



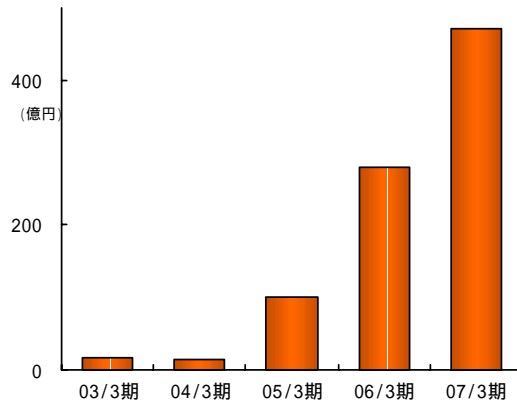
M&A取扱実績



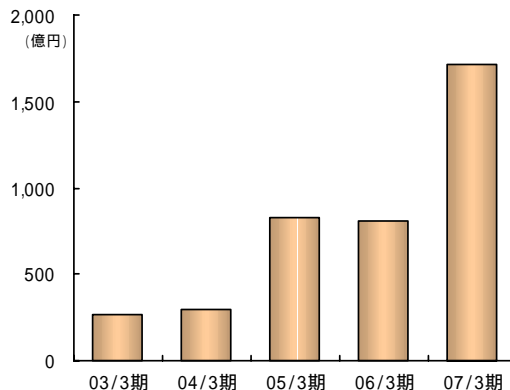
法人関連新業務 役務収益実績・計画



私募債引受実績



シンジケートローンアレンジ実績



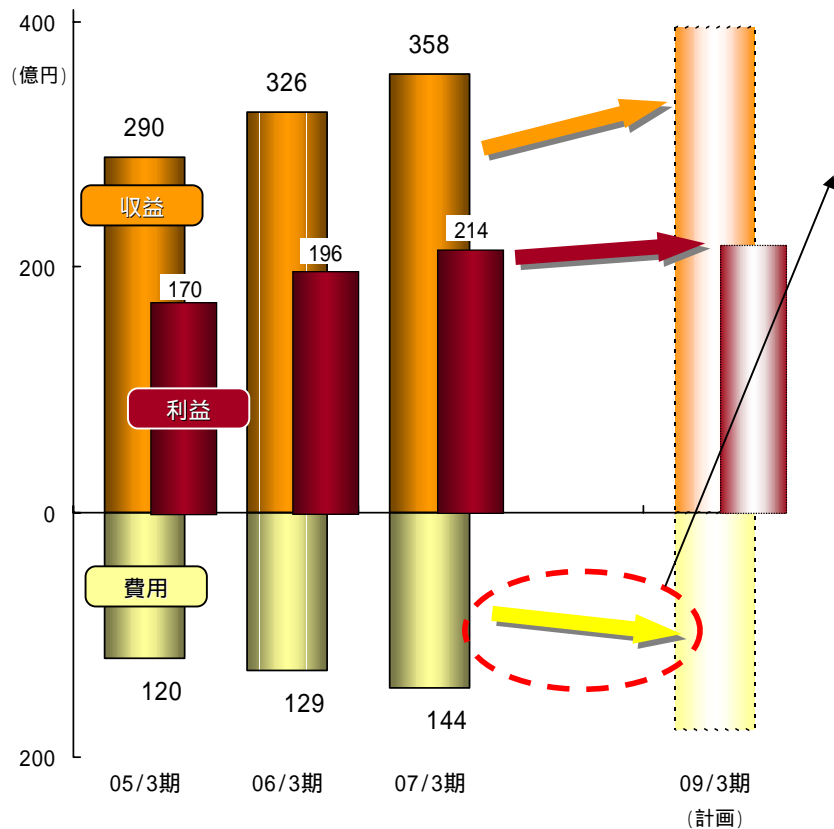
私募債、M&A、シンジケートローン関連、CLO



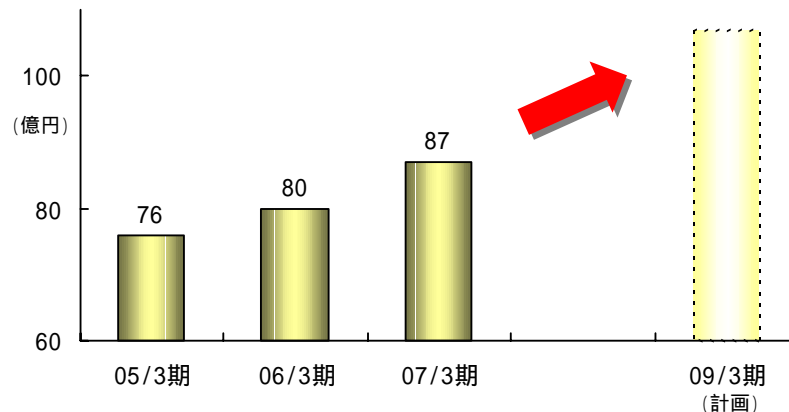
# 役務取引等利益

## ◆役務取引等利益全体は漸増

役務取引等利益実績・計画



ローン関係費用(支払保証料・団信保険料)



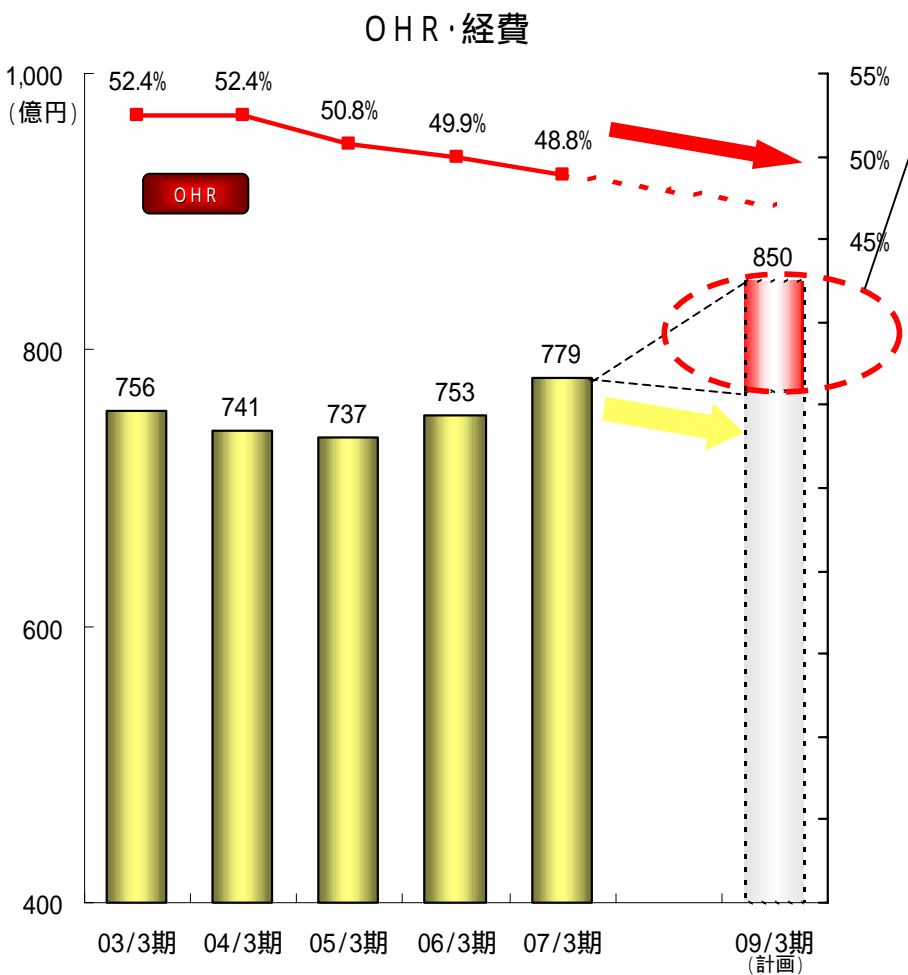
## 顧客還元の充実



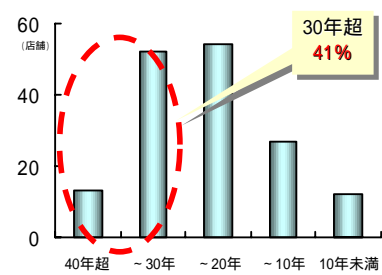


1.個人向けインターネットバンキング、モバイルバンキング、テレフォンバンキングの総称  
2.テレフォンバンキングはオペレータ対応方式を除く

# 経費

## ◆高い経営効率の維持と成長のための戦略的支出

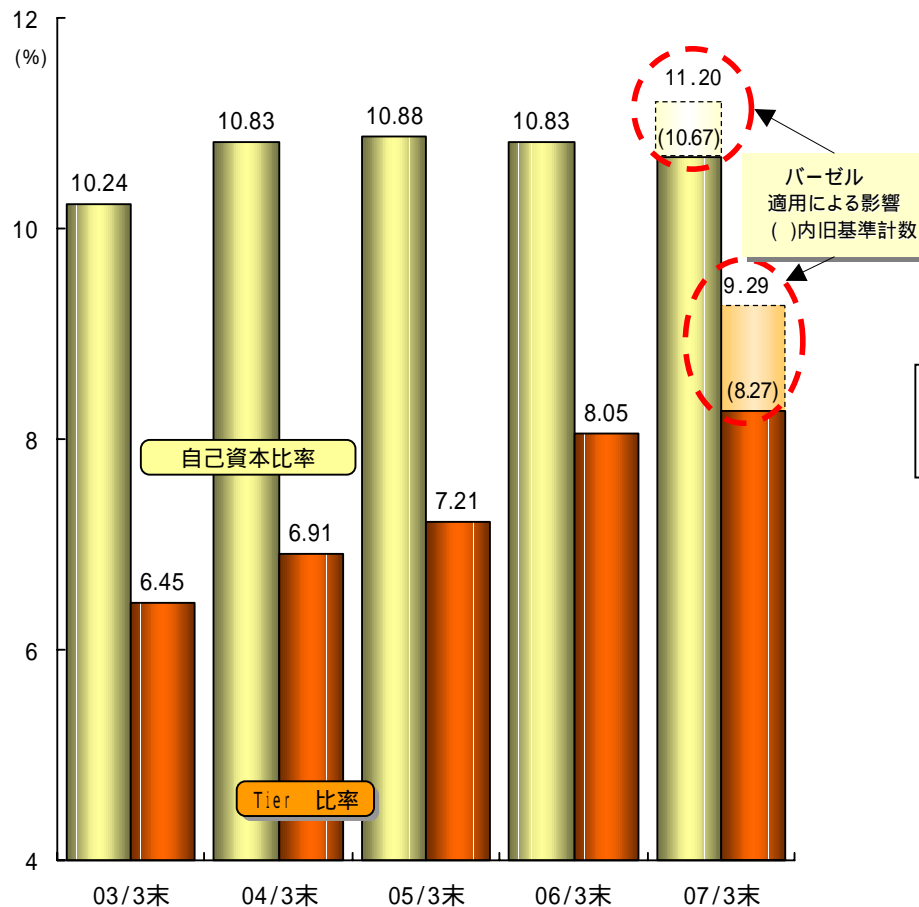


80億円	さらなる成長のための経費
40億円	新店舗・収益増強等
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓10店舗程度の新拠点開設</li> <li>✓全店舗バリアフリー化</li> <li>✓店頭体制の強化</li> <li>✓営業人員の増加</li> </ul>	 
40億円	各種リニューアル
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓老朽化店舗改築</li> <li>✓営業店システム高度化</li> <li>✓営業店ネットワーク全面更改 (光ファイバー化)</li> </ul>	<p>当行店舗の築年数分布</p> 

# 自己資本比率

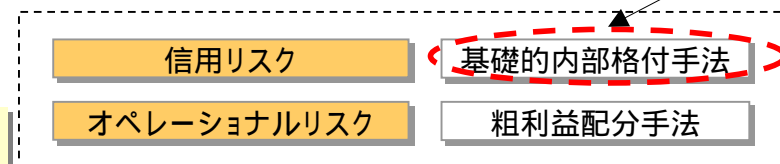
## ◆バーゼル に適応した管理態勢の構築

自己資本比率・Tier 比率推移(単体ベース)



バーゼル 適用開始

借り手のリスクを  
精緻に反映



ストレステスト(金融庁告示第200条に基づく)

過去実績等を踏まえシナリオを設定  
(倒産増加、不動産地価下落等)

	現状	ストレス時	増減
自己資本	5,723	5,481	243
リスクアセット	51,076	56,575	5,499
自己資本比率	11.20%	9.68%	1.52%
Tier 比率	9.29%	8.08%	1.21%

単体ベース

8%を確保

# 配当政策

◆安定配当の考え方を維持しつつ、配当金額の継続的な増加を実現

一株当たり配当・配当性向実績・計画

